



共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

研究基盤EXPO
2026

クロージング

会 期

2026年1月27日(火)～2026年2月2日(月)

主催 一般社団法人研究基盤協議会 (CORE)

共催 文部科学省

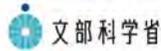
協力 株式会社島津製作所、日本電子株式会社、株式会社日立ハイテク

後援 一般社団法人日本分析機器工業会 (JAIMA)

主催



共催



協力



後援





共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

研究基盤EXPO
2026

速報

一般社団法人研究基盤協議会 理事・副会長

岡 征子

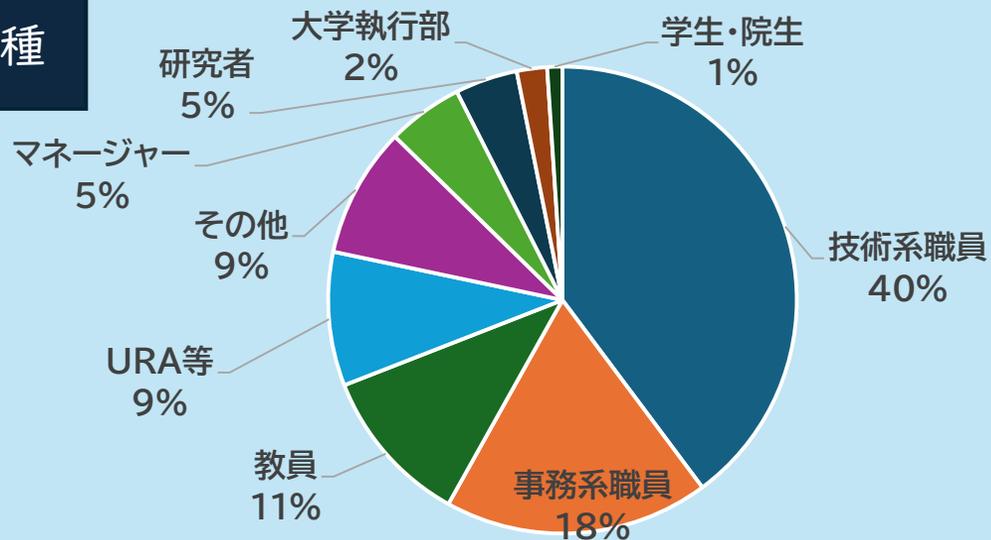


参加登録状況

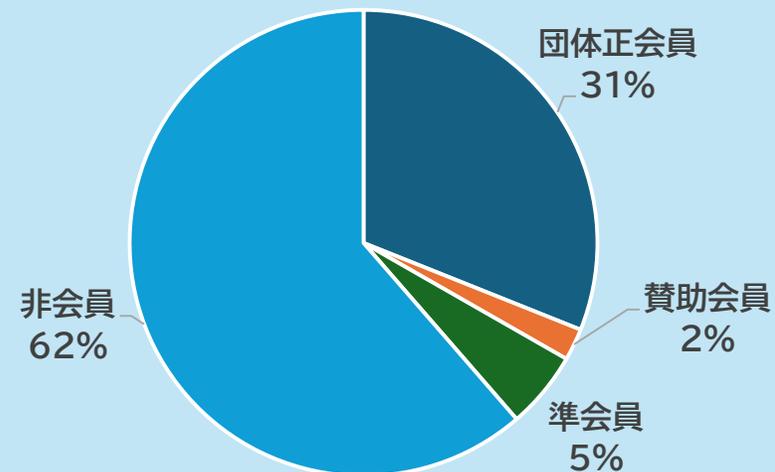
のべ数 3,830名
実数 767名

※1月20日現在事前申込者数より

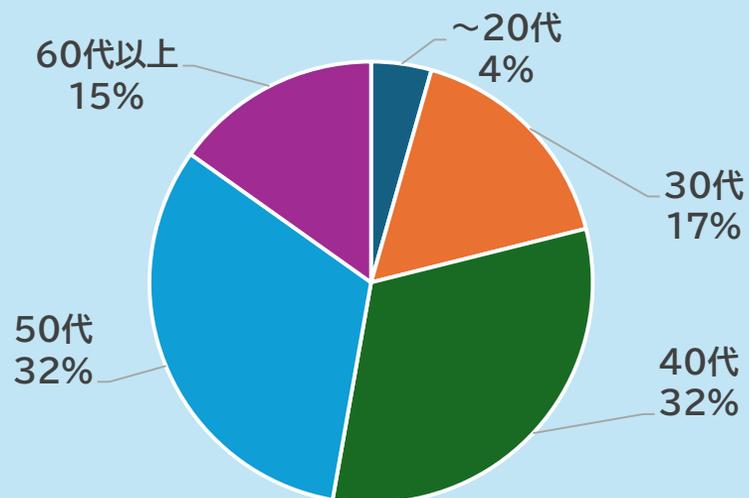
職種



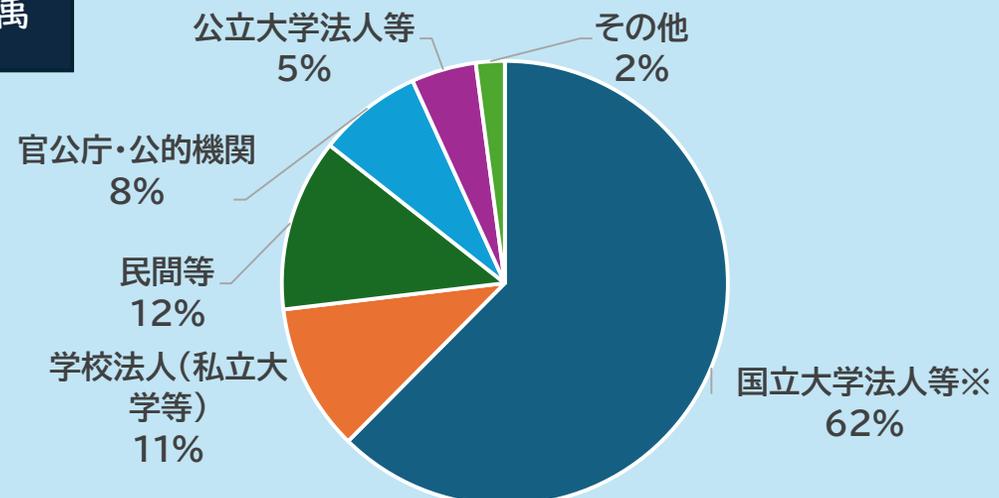
会員種別



年齢層



所属



1月27日(火) 9:30-9:50 オープニング

開会挨拶

研究基盤協議会 代表理事・会長
江端 新吾 (東京科学大学)



挨拶

文部科学省 科学技術・学術政策局 局長
西條 正明



プログラム紹介

研究基盤協議会 理事・副会長
岡 征子 (北海道大学)



第5回研究基盤協議会シンポジウム

主催：筑波大学



第一部の研究基盤協議会報告に続き、第二部では「地域・産学官の連携による研究基盤強化」に焦点を当て、取組み事例を紹介するとともに、大学・研究所・企業等、分野を超えた共創プラットフォームの知見や情報から現在の課題を共有し、「研究基盤の共創による好循環」に向けた未来構想を議論しました。

申込者数：514名
現地参加：160名
オンライン参加：354名

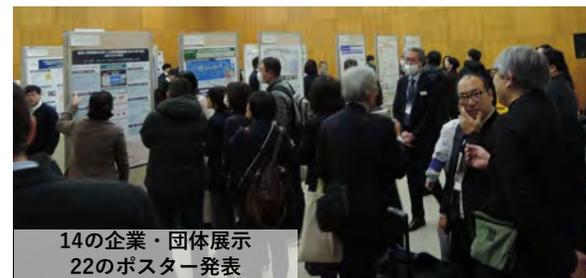
第1部 研究基盤協議会の活動報告



第2部 筑波大学シンポジウム～研究基盤の共創による好循環を探る～



ポスターセッション・企業ブース展示



※敬称略

1月28日 (水) 9:00-12:30 研究基盤協議会 「共創の場」 シンポジウム

主催：研究基盤協議会

一般社団法人
研究基盤協議会

共創の場

シンポジウム

2026
1/28(水) 9:00~12:30

第1部；技術職員コンソーシアムでは、「研究を支える存在から、研究を共創する存在へ」というビジョンを掲げ、工作系技術者が担う“ものづくりの力”とその可能性を示しました。

第2部；自由な裁量の下で高度な研究支援を行う先進事例を持つ人々との議論を通じ、現場人材の主体的な活動を制約する要因や解決策になりうる横の繋がり的重要性について議論しました。

申込者数：477名
現地参加：75名
オンライン参加：255名

第一部 TAMARIBA企画 「支援」から「共創」へ研究を創り出す“ものづくりの力”

第2部 若手NW企画 「現場力を解き放つ 制約を超える対話と連携」



1月28日(水) 14:00-17:00 知の創造を支える人財とは何か？ ～AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて～

主催：
日本学術会議若手アカデミー、
研究基盤協議会

**知の創造を支える人財とは何か？
～AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて～**

主催 日本学術会議若手アカデミー-学術の未来を担う人材育成分科会
一般社団法人研究基盤協議会

参加無料-要事前申込
(締切: 2026/1/20)

場所 筑波大学・大学会館国際会議室(現地定員 100名・先着) /
オンライン(Zoom定員 500名・先着)

日時 令和8年(2026年)1月28日(水) 14:00~17:00

我が国が知の最前線を牽引するためには、研究費、技術者、専任職員、URA など多様な研究人財(「人は財(たから)である」との意味を込めて、「人材」ではなく「人財」と表記する)の存在が不可欠である。しかし、博士課程進学者の減少や就職機会の縮小により、人財確保は年々困難となり、研究基盤の弱体化が懸念される。特にAI for Science や先端大規模研究施設分野では需要が急増している。そこで本シンポジウムでは、今後求められる資質・能力の検討、人財の確保と体系的育成の方法について、アカデミア・実務・政策の視点から課題を共有し、実践的に議論する。

◆司会 山田 知沙 (一般社団法人研究基盤協議会役員委員/コンソーシアムコーディネーター / 山口大学総合技術専攻専門職員)

開会挨拶
14:00 小野 悠 (日本学術会議議員委員 / 若手アカデミー代表 / 豊後技術科学大学大学院工学研究科准教授)

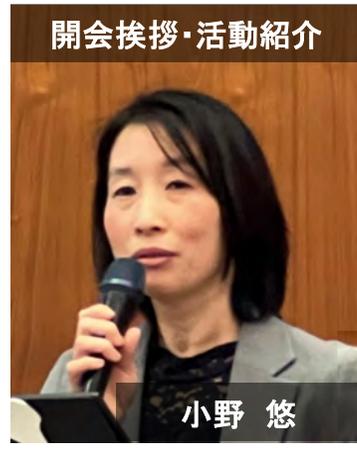
活動紹介
14:10 小野 悠 (日本学術会議議員委員 / 若手アカデミー代表 / 豊後技術科学大学大学院工学研究科准教授)
江端 新吾 (一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長)

近年、我が国の学術を支える多様な研究人材(人財)の確保が困難となる中、AIや先端研究施設などの分野で専門人材の需要が急増している。本シンポジウムでは、こうした人財に求められる資質や育成のあり方について、アカデミア・実務・政策の立場から議論を行い、次世代の研究人材育成に向けた具体的な提言を行った。

申込者数：459名
現地参加：60名
オンライン参加：198名



山田 知沙



小野 悠



服部 明日希



小川 剛伸



江端 新吾



杉本 舞

川口 慎介

松本 尊道

安東 真理子

服部 明日希

竝木 茂朗

私立大学の戦略的コアファシリティ2026

主催：東海大学、早稲田大学

シンポジウム
私立大学の戦略的コアファシリティ2026

2026年1月29日(木) 10:00~12:30

開催方法: オンライン
 参加費無料
 要約掲載あり

趣旨
 我が国のグローバル産業界を担う人材育成において、理系学部学生の約6割を抱える私立大学は中核的な役割を果たしている。今後不足するデータ活用スキルに優るDX人材輩出を視野に、研究と教育をつなぎ、技術職員・研究者・企業との協働による、新たな私立大学コアファシリティモデルの方向性を探る。

プログラム

司会 小田慶喜 東海大学 学長室(研究推進・産学連携担当) 上級技術職員

10:00 開会挨拶 森野 伸二 東海大学 副学長(研究担当)

10:05 趣旨説明 荒砂 高 東海大学 マイクロノ/研究開発センター/学長室 准教授・URA

10:15 基調講演 奥 篤史 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 課長

10:35 講演 私立大学の取組紹介
 ・菅野 潤平 慶應義塾大学 医学部 電子顕微鏡研究室 准教授
 ・島貫 瑞樹 沖縄科学技術大学院大学 ロボスト補佐(研究開発調整担当)
 ・浜本 牧子 明治大学 副学長(総合政策担当)

11:20 パネルディスカッション
 モデレーター 荒砂 高 東海大学 マイクロノ/研究開発センター/学長室 准教授・URA

我が国のグローバル産業界を担う人材育成において、理系学部学生の約6割を抱える私立大学は中核的な役割を果たしている。今後不足するデータ活用スキルに優るDX人材輩出を視野に、研究と教育をつなぎ、技術職員・研究者・企業との協働による、新たな私立大学コアファシリティモデルの方向性を探った。

申込者数：335名
 オンライン参加：179名

産総研グループ・研究基盤協議会 連携協定記念シンポジウム

主催：産業技術総合研究所、AIST Solutions、研究基盤協議会

研究基盤EXPO2026 共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
 コアファシリティを巡る、ひろがる未来へ
 2026年1月27日(火)～2026年2月2日(月)

**産総研グループ・研究基盤協議会
 連携協定記念シンポジウム**

- 日時** 2026/1/29(木) 14:00～15:30
- 場所** 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
 つばきセンター 本部・情報棟1F ネットワーク会議室
 (オンラインハイブリッド)
- 趣旨** 研究設備・機能の共有化は、我が国の研究力強化に向けた重要課題である。文科省や経産省の事業計画で定まるとともに、現在、内閣府を中心に国の指定を受けるデジタル科学技術・イノベーション推進本部の推進策においても、「研究設備・機能の共有化」が重要な一つの柱として位置づけられている。
- プログラム**
- ・イントロダクション
 - ・企画担当説明-研究基盤エコシステムの現状データ紹介
 - ・基調講演
 - ・研究基盤政策の方向性(共有推進-人材戦略-JPEAKSとの関係)

産業技術総合研究所とAIST Solutionsは、設備共用化を本格的に推進するため、研究基盤協議会と連携協定を締結しました。本シンポジウムでは、産総研グループと全国の大学との連携や、設備共用化の先にある将来像について議論します。あわせて、政府および企業の視点を踏まえた多角的な意見交換を行いました。

基調講演

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
 井上 諭一 統括官



施設見学会



パネルディスカッション

モデレータ：産業技術総合研究所 大隈 隆史 連携推進企画室長
 パネリスト：内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 井上 諭一 統括官
 パネリスト：産業技術総合研究所 徳増 伸二 理事
 パネリスト：研究基盤協議会 江端 新吾 会長
 パネリスト：島津製作所 西本 尚弘 常務執行役員 CTO



申込者数383名／参加267名
 (現地55名(うち見学参加：26名)・オンライン212名)

SXプラットフォームシンポジウム ～ “借りる” から始める新たな研究基盤強化の構築～

主催： 岡山大学

2026年 1月30日(金) 10:00-12:00

開催方法 オンライン

SXプラットフォームシンポジウム

“借りる”から始める
新たな研究基盤強化の構築

研究機器の購入や維持・更新には高いコストが必要であるため、多くの大学・研究機関が研究を推進する上で大きな課題となっています。「借りる」のより良い手段を提供するSX（シェアードトランスフォーメーション）プラットフォーム。本取組が及ぼす研究環境・研究基盤強化、そして教職員の意識・行動変容等を議論しました。

10:00	挨拶	岡山大学 学長 那須 保友
10:05	導入	岡山大学 副理事・副学長・総合技術部本部長 佐藤 法仁
10:10	話題1	文部科学省 科学技術・学術政策局 参事官（研究環境担当）付 参事官補佐 高山 勇人
10:15	話題2	日本電子株式会社 SI事業戦略本部 OI推進部 部長 片桐 慎一
10:20	話題3	岡山大学 総合技術部 技術主幹・チーム共用コアファシリティ部門長 阿部 匡史
10:25	トークセッション	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 参事官（研究環境担当）付 上席政策調査員 高村 康裕
10:30	講評	一般社団法人 研究基盤協議会 理事・副会長 岡 征子
10:35	閉会挨拶	岡山大学 総合技術部 部長 田村 義彦

研究機器の購入や維持・更新には高いコストが必要であるため、多くの大学・研究機関が研究を推進する上で大きな課題となっています。「借りる」のより良い手段を提供するSX（シェアードトランスフォーメーション）プラットフォーム。本取組が及ぼす研究環境・研究基盤強化、そして教職員の意識・行動変容等を議論しました。

申込者数：402名
オンライン参加：214名



岡山大学 学長
那須 保友



岡山大学 副理事・副学長・
総合技術部本部長
佐藤 法仁



文部科学省 科学技術・学術政策局
参事官（研究環境担当）付 参事官補佐
高山 勇人



日本電子株式会社 SI事業戦略本部
OI推進部 部長
片桐 慎一



岡山大学 総合技術部 技術主幹・
チーム共用コアファシリティ部門長
阿部 匡史



内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
参事官（研究環境担当）付 上席政策調査員
高村 康裕



一般社団法人 研究基盤協議会 理事・副会長
岡 征子



岡山大学 総合技術部 部長
田村 義彦

東京科学大学TCカレッジシンポジウム

主催：東京科学大学

Science Tokyo
TCカレッジシンポジウム
~Beyond the 5th キックオフ~
2026年1月30日(金)
13:30~17:00 参加無料
会場開催+オンライン配信
(対面) 東京科学大学 大岡山キャンパス
西8号館10階大会議室

文部科学省委託事業「コアファシリティ構築支援プログラム」にて立ち上げた高度技術人財養成の場「TCカレッジ」は、2025年10月に組織改革を行いオールジャパンおよびグローバルなネットワークを構築する新生TCカレッジとして生まれ変わりました。教育研究に関わる技術者が持つ力を最大化する、TCカレッジの魅力・今後の展開などをご紹介します。

申込者数：447名
現地参加：64名
オンライン参加：306名

- 司会・進行** 東京科学大学TCカレッジ 副カレッジ長 高橋 久徳
- 開会挨拶**
東京科学大学 学長 田中 雄二郎
- 来賓挨拶**
文部科学省科学技術・学術政策局 参事官 (研究環境担当) 馬場 大輔 氏
文部科学省科学技術・学術政策局 人材政策課長 奥 篤史 氏
- ビデオメッセージ**
日本電子株式会社 代表取締役社長兼CEO 大井 泉 氏
株式会社島津製作所 社長 山本 靖則 氏
- 基調講演：「東京科学大学の今、そして 高度技術専門人財への期待」**
東京科学大学 理事長 大竹 尚登
- 講演①：「東京科学大学の研究インフラとリサーチインフラ・マネジメント機構」**
東京科学大学 リサーチインフラ・マネジメント機構 機構長 清水 重臣
- 講演②：「ScienceTokyo TCカレッジのこれまでとこれから」**
東京科学大学 TCカレッジ カレッジ長 江端 新吾
- 講演③：「TC取得とその後の活動」**
東京科学大学 コアファシリティセンター 上席技術専門員 構造解析系TC 梶谷 孝
- パネルディスカッション：「オールジャパンで取り組むべき技術専門人財養成のあり方」**
登壇者
馬場大輔 文部科学省科学技術・学術政策局 参事官 (研究環境担当)
奥 篤史 文部科学省科学技術・学術政策局 人材政策課長
清水重臣 東京科学大学 リサーチインフラ・マネジメント機構 機構長
熊本 明仁 日本電子株式会社経営戦略室経営企画部経営企画グループ
平岡 敬朗 株式会社島津製作所分析計測事業部SolutionsCOEセンター長
ファシリテーター 江端新吾 東京科学大学 TCカレッジ カレッジ長
- 閉会挨拶**
東京科学大学 執行役・副理事・副学長 古川 哲史



令和7年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

主催：文部科学省

筑波大学・高橋智氏

信州大学・中田勉氏

名古屋市立大学・加藤洋一氏

広島大学・楯真一氏

琉球大学・名嘉村盛和氏

令和7年度 先端研究基盤共用促進事業 シンポジウム

2026年 2月2日(月) 9:30-12:30

プログラム

- 9:30 開会挨拶 西條 正明 (文部科学省 科学技術・学術政策局長)
- 「コアファシリティ構築支援プログラム」令和3年度採択機関から、過去5年間の取組や課題について集大成としての報告を行うとともに、来年度から始まる次期科学技術・イノベーション基本計画を見据え、先端研究基盤刷新事業(EPOCH)の狙いなど、最新の政策動向や今後の方向性について議論しました。
- 9:35 筑波大学 高橋 智 (医学医療系・教授 医学医療系長 オープンファシリティ・推進機構 専任 兼 専務)
- 信州大学 中田 勉 (基礎研究センター長 コアファシリティ・推進機構 専任 兼 専務)
- 名古屋市立大学 加藤 洋一 (共用機器センター長/工学部学務部長 教授)
- 広島大学 楯 真一 (理事・副学長 戦略・学務部長)
- 琉球大学 名嘉村 盛和 (理事・副学長 研究・地域連携担当 / 研究科長 兼 専務)
- 10:35 意見交換
- 10:50 東北大学 杉本 亜砂子 (理事・副学長 研究担当)
- 長岡技術科学大学 武田 雅敏 (理事・副学長)
- 東京農工大学 箕田 弘喜 (スマートコアファシリティ・推進機構 機構長)
- 東海国立大学機構 大槻 主税 (名古屋大学 全学技術センター 技術部長 / 工学研究科 教授)
- 大阪大学 古谷 浩志 (コアファシリティ・機構 戦略企画課 教授 兼 専務)

研究基盤EXPO2026 2026.2.2
令和7年度先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

令和3年度採択機関
筑波大学コアファシリティ構築支援プログラム
成果報告



国立大学法人筑波大学
オープンファシリティ推進機構
副機構長 高橋 智

信州大学におけるコアファシリティ
構築支援プログラムの取組みと成果

信州大学先端研究支援センター コアファシリティ推進室
中田 勉

名古屋市立大学
共用機器センター



コアファシリティ構築支援プログラム成果報告

自然科学研究支援開発センターの改組による
全学一元管理体制の定着と
工学基盤機器の新たな共用制度の構築

広島大学
コアファシリティ推進室室長
楯 真一

令和7年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

琉球大学におけるコアファシリティ構築
～取組み・成果・課題～



琉球大学

東北大学・杉本亜砂子氏

長岡技術科学大学・武田雅敏氏

東京農工大学・箕田弘喜氏

東海国立大学機構・大槻主税氏

大阪大学・古谷浩志氏

研究基盤EXPO2026 令和7年度先端研究基盤共用促進事業シンポジウム (2026.2.2)

東北大学
コアファシリティ構築支援プログラム成果報告
(R3～R7)

理事・副学長(研究)
コアファシリティ統括センター長
杉本 亜砂子

文部科学省 先端研究基盤共用促進事業
(コアファシリティ構築支援プログラム)

技学コアファシリティネットワーク

連携・共用を核とした技科大一高専連携ネットワークにおける
研究力支援とDX人材の育成

長岡技術科学大学
理事・副学長
武田 雅敏

令和7年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム 令和7年2月2日

コアファシリティ構築支援プログラム
事業の成果報告

国立大学法人東京農工大学
スマートコアファシリティ推進機構
機構長 箕田 弘喜

TAT

THERS Tech

東海国立大学機構 コアファシリティ
5年間の足跡

技術職員を主体としたボトムアップ型研究基盤マネジメント

2026年2月2日(月) 令和7年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム

東海国立大学機構 統括技術センター/名古屋全学技術センター 技術部長
名古屋大学大学院工学研究科 教授 大槻 主税

東海国立大学機構

大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

大阪大学コアファシリティ体制
事業開始5年後の“現在”と“これから”

大阪大学
コアファシリティ機構 戦略企画室室長
古谷 浩志

最終年度を迎え、「コアファシリティ構築支援プログラム」令和3年度採択機関から、過去5年間の取組や課題について集大成としての報告を行うとともに、来年度から始まる次期科学技術・イノベーション基本計画を見据え、先端研究基盤刷新事業(EPOCH)の狙いなど、最新の政策動向や今後の方向性について議論しました。

【開会挨拶】文部科学省・西條正明局長

【講演】文部科学省・馬場大輔参事官(研究環境担当)

【閉会挨拶】文部科学省・福井俊英参議官



【各大学からの講演後、意見交換の様子】



申込者数：約700名
オンライン参加：約600名

JAIMA-CORE共催シンポジウム「AI・ロボット駆動型ラボシステム構築への挑戦」

共催：JAIMA、研究基盤協議会



JAIMA-CORE共催シンポジウム
 2026年2月2日 (月) 14:00 - 16:00
 開催場所：オンライン (ZOOMを予定)

AI・ロボット駆動型ラボシステム構築への挑戦

AIとロボット技術の革新により、これまで人手に依存してきた研究開発プロセスを、AIと実験ロボットによって刷新する動きが加速している。こうした変革を実現するには、研究開発という不定形かつ複雑な業務に適したラボシステムの構築が不可欠である。本シンポジウムでは、AI・ロボットの先進的な取り組み事例を紹介するとともに、その経験や最新の技術動向を踏まえた効率的なラボシステム構築の観点や、データプラットフォーム構築による材料開発の進展についても議論する。

プログラム
 司会：岡征子 (一般社団法人 研究基盤協議会理事)

14:00-14:05 開会挨拶 吉田秀人 (JAIMA専務理事)

14:05-14:15 JAIMA講演
 テーマ：マテリアル領域におけるAI・ロボット駆動型ラボシステム構築の課題
 杉沢寿志 (JAIMA技術委員長)

14:15-14:30 話題提供者① (発表10分/質疑5分)
 テーマ：Self-driving laboratoryの世界動向とその普及に向けた取り組み
 吉川成輝 (主任研究員・物質・材料研究機構マテリアル基盤研究センター)

14:30-14:45 話題提供者② (発表10分/質疑5分)
 テーマ：大学共同利用機関におけるAI・ロボット駆動型ラボシステムとは
 清水亮太 (教授・自然科学研究機構分子科学研究所)

AIとロボットの技術革新により、これまで人手に依存してきた研究開発プロセスをAIと実験ロボットで刷新する動きが加速している。これを実現するには、研究開発という不定形業務に適したラボシステムの構築が不可欠となる。本シンポジウムでは、先進事例の紹介と構築ポイントについて議論した。

申込者数：355名
 オンライン参加：224名

開会挨拶



JAIMA
 専務理事
 吉田 秀人

講演
 パネル



JAIMA
 技術委員会
 委員長
 杉沢 寿志

司会



研究基盤協議会
 副会長・岡 征子

話題提供 1
 パネル



物質・材料
 研究機構
 マテリアル基盤
 研究センター
 主任研究員
 吉川 成輝

話題提供 2
 パネル



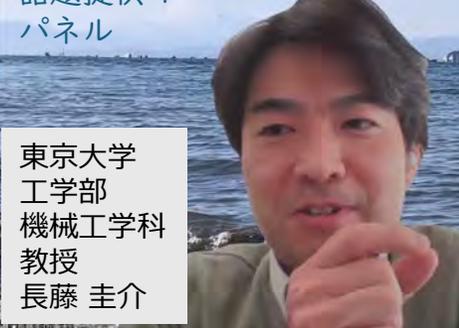
自然科学
 研究機構
 分子科学研究所
 教授・清水 亮太

話題提供 3
 パネル



産業技術
 総合研究所
 材料基盤
 研究部門
 主任研究員
 高橋 顕

話題提供 4
 パネル



東京大学
 工学部
 機械工学科
 教授
 長藤 圭介

パネル
 総括



内閣府
 科学技術・
 イノベーション
 推進事務局
 統括官
 井上 諭一

ファシリテーター



研究基盤協議会
 会長・江端 新吾



研究基盤 EXPO2026

共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
 ~コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ~

2026年1月27日(火)~

研究基盤 EXPO2026
 第5回研究基盤協議会シンポジウム

研究基盤の共創による好循環を探る

第1部の研究基盤協議会報告に続き、第2部では「地域・協学生の連携による研究施設強化」に焦点を当てた取組事例を紹介するとともに、大学・研究所・企業等、分野を越えた共創プラットフォームの活用や情報から現在の課題を共有し、「研究基盤の共創による好循環」に向け未来戦略を議論します。

日時 2026.1.27(火) オープニング 9:30 - 9:50
 第1部 9:50 - 12:00
 第2部 13:15 - 17:15
 情報交換会 17:45 - 19:45

会場 筑波大学 大会会館3階 + オンライン配信
 メイン会場：同館会議室 / ホスティング会場：特別会議室

一般社団法人
 研究基盤協議会

共創の場

シンポジウム
 2026

知の創造を支える人財とは何か？ ~AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて~

主催 日本学術会議若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会
 一般社団法人研究基盤協議会

場所 筑波大学・大会会館国際会議室(現地定員100名・先着) /
 オンライン(Zoom定員600名・先着)

日時 令和8年(2026年)1月28日(水)14:00~17:00

参加無料・要事前申込
 (締切:2026/1/20)

◆司会 山田 知沙 (一般社団法人研究基盤協議会技術職員コンソーシアムコーディネーター/
 山口大学総合技術研究センター長)

開会挨拶
 14:00 小野 悠 (日本学術会議選考委員 / 若手アカデミー代表 / 慶應義理工学大学院工学研究科准教授)

活動紹介
 14:10 小野 悠 (日本学術会議選考委員 / 若手アカデミー代表 / 慶應義理工学大学院工学研究科准教授)
 江崎 新吾 (一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長)

シンポジウム 私立大学の戦略的コアファシリティ2026

2026年1月29日(木)
 10:00~12:30

開催方法 オンライン
 参加費無料
 事前登録必須

趣旨
 我が国のグローバル産業界を担う人材育成において、理系学部学生の約6割を抱える私立大学は中核的な役割を果たしている。今後不足するデータ活用スキルに優れるDX人材輩出を視野に、研究と教育をつなぎ、技術職員・研究者・企業との協働による、新たな私立大学コアファシリティモデルの方向性を探る。

プログラム
 司会 小田 慶喜 東海大学 学長室(研究推進・産学連携担当) 上級技術職員
 10:00 開会挨拶 桑野 伸二 東海大学 副学長(研究担当)
 10:05 趣旨説明 茂野 茜 東海大学 マイクロナノ研究開発センター/学長室 准教授・URA
 10:15 基調講演 廣 篤史 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 課長

研究基盤EXPO2026 共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
 ~コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ~
 2026年1月27日(火) ~ 2026年2月2日(月)

産総研グループ・研究基盤協議会 連携協定記念シンポジウム

日時 2026/1/29(木) 14:00~15:30 参加無料・要事前申込

場所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
 つくばセンター 本部・情報管理1F ネットワーク会議室
 (オンラインハイブリッド)

趣旨
 研究設備・施設の共同利用は、我が国の研究力強化に向けた重要な課題である。文科省や経産省の産総研報告書でも打ち出されている。産総研・産総研の共同利用促進を主目的とする産総研・産総研・産総研基本推進協議会(産)において、「研究設備・施設の共同・高度化の推進」は重点の一つとして位置づけられている。

プログラム
 ◆イントロダクション
 ◆企画趣旨説明-研究基盤エコシステムの現状データ紹介
 ◆基調講演

研究基盤EXPO2026

開催方法
 オンライン

SXプラットフォーム シンポジウム

“借りる”からはじめる
 新たな研究基盤強化の構築

2026年1月30日(金)
 10:00~12:00

研究施設の導入や維持・更新には高いコストが伴うため、多くの大学・研究所は少研究費で済ませる上で大きな課題となっており、「借りる」のより良い実例を調査するなどの取り組みが期待されています。プラットフォーム。本取組が及ぼす研究開発・研究基盤強化、そして教育者の意識・行動変容も議論します。

10:01 開会
 10:05 趣旨説明

INSTITUTE OF SCIENCE TOKYO
 TCカレッジ

Science Tokyo TCカレッジシンポジウム

~Beyond the 5th キックオフ~

2026年1月30日(金)
 13:30~17:00

参加無料

会場開催 + オンライン配信

令和7年度 先端研究基盤共用促進事 シンポジウム

プログラム
 9:30 開会挨拶 西條 正明
 文部科学省 科学技術・学術政策局
 「コアファシリティ」構築支援プログラム
 令和3年度採択校による事業取組の集大成

9:35 筑波大学 高橋 智
 医学医療部 教授 医学医療部 部長
 「オープンアクセス」推進協議会 会長

信州大学 中田 勉
 基礎研究支援センター コアファシリティ推進室
 副室長・准教授

名古屋市立大学 加藤 洋一
 共用推進センター長 / 大学院工学研究科 教授

広島大学 橋 真一
 学術・社会連携室 室長兼教授

琉球大学 名倉村 盛和
 理事・副学長 研究・地域連携担当 / 研究科長補佐

10:35 意見交換
 10:50 東北大学 杉本 亜紗子

研究基盤EXPO2026
 JAIMA-CORE共創シンポジウム
 一般社団法人 日本分析機器工業会 共催

AI・ロボット駆動型ラボシステム構築への挑戦

2026年2月2日(月) 14:00 - 16:00
 開催場所: オンライン (ZOOMを想定)

AIとロボット技術の革新により、これまで人手に依存してきた研究開発プロセスを、AIと実験ロボットによって劇的に変革が加速している。こうした変革を実現するには、研究開発という不定形かつ複雑な課題に異なったラボシステムへの構築が不可欠である。本シンポジウムでは、AI・ロボットの先進的な取り組み事例を紹介するとともに、その経験や最新の技術動向を踏まえた効果的なラボシステム構築の要件や、データプラットフォーム構築による材料開発の効率化についても議論する。

プログラム
 司会: 岡田 正 (一般社団法人 研究基盤協議会理事)
 14:00~14:05 開会挨拶 吉田秀人 (JAIMA専務理事)
 14:05~14:15 JAIMA講演
 テーマ: マテリアル領域におけるAI・ロボット駆動型ラボシステム構築の課題
 杉沢寿志 (JAIMA技術委員長)
 14:15~14:30 基調講演(共催) (各案10分 / 質疑5分)

~2026年2月2日(月)



共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

研究基盤EXPO
2026

速報 (終)



共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

研究基盤EXPO
2026

総括

文部科学省科学技術・学術政策局参事官

馬場 大輔



共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

研究基盤EXPO
2026

閉会挨拶

一般社団法人研究基盤協議会 理事・副会長

植草 茂樹

研究基盤 EXPO2026

共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

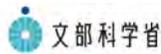
実行委員会

委員長	江端	新吾	(東京科学大学)	
副委員長	岡	征子	(北海道大学)	事務局
副委員長	仙丸	浩暉	(文部科学省)	
副委員長	高橋	智	(筑波大学)	
委員	荒砂	茜	(東海大学)	
委員	安東	真理子	(東北大学)	
委員	江口	奈緒	(大阪大学)	
委員	小川	剛伸	(京都大学)	
委員	高橋	久徳	(東京科学大学)	
委員	土屋	慈弘	(産業技術総合研究所)	
委員	萩平	耕一	(株式会社AIST Solutions)	
委員	安信	香苗	(岡山大学)	
委員	渡邊	政典	(山口大学)	

主催



共催



協力



後援



研究基盤 EXPO2026

共創する研究基盤：革新と連携が拓く新たなステージ
～コアファシリティを連ね、ひろがる未来へ～

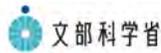
ご参加くださいまして、ありがとうございます

後日送付されます
アンケートへのご協力を宜しくお願い申し上げます。

主催



共催



協力



後援

